

第28回 “戦国” 皇居一周ジョギング大会開催報告

有限会社山口不動産鑑定所 山口和範

鑑定士走友会では、毎年5月中旬の風薫る季節に、皇居一周ジョギング大会を開催している。今年で28回目となる。私は東京士協会在籍中のH7・8年に二連覇して華々しいデビューを飾った後、3次試験で練習をサボりがちになり、そのまま30歳になり、40歳になり…しばらく上位から遠ざかっている。ただ今回は前回王者（石井一嘉氏）不在の下、大混戦が予想された。「戦国皇居一周」の幕開けである。

関東大震災の翌日生まれの倉橋總八先生（90歳）や佐々幸夫先生（81歳）といった大先輩をはじめ、一週間前から走り始めた初参加の中央不動産鑑定所の女性など、今回はウォーキングを含め19名のエントリーとなった。日本不動産研究所もかつては毎年のように秘密兵器として若手を投入し、出世の登竜門としてきたようであるが（笑）、私の東京人脈はこの鑑定士走友会で培われたといっても過言でない。皇居は年々ランナーが多くなり、この日も「地面にテープを貼っちゃダメ」と環境省のおっちゃんから教育的指導を受けたので、アスファルトのひび割れをラインに見立てての涙ぐましいスタートとなった。

私は快調な滑り出しで、松田孝亮氏（不動研）と鵜澤省一氏（日本土地建物）の先行は許したものの、水口賢司氏（ハドソンジャパン）を1km手前で捉え、瀬古とイカンガーの並走を髣髴とさせる風除け戦法でしばらく行くこととした。「このまま競技場になだれ込んでのトラック勝負か…」いやいやここは皇居、そこで竹橋を過ぎてからの心臓破りの坂で一気に引き離す戦法に打って出たところ、見事に追い落とすことに成功した。さす

がヤマ軍師和兵衛。その後2km、3kmと一人旅が続き、「H15以来の入賞だな」と3位をほぼ掌中に収めながら半蔵門の御濠端を下っていたまさにその時、歴史が動いた！先の水口氏が息を吹き返し、「お疲れさまで〜す」と今度は一気に私を追い抜いて行ったのである。先輩の栗原活郎氏がイタリア人顔だけに、こいつもボルデインのように相当の曲者だ。「かつてデュエリでハドソンに貢献した恩を忘れたか〜！」と遠ざかる背に叫んでもここは戦国の世。私はラストスパートの余力もなく、最後は見えないくらい離されて桜田門のゴールをくぐった。結局4位でタイムは22分36秒。皇居一周も、人生も、まだまだだ。

ところで、私が東京士協会から原稿のオファーを頂くのは今回で2回目になる。1回目は東京弁護士会主催の大運動会の参戦記（H11新春号）。そして今回も鑑定士走友会関連である。次は体育会系でなく、「金融緩和と不動産価格」とかアカデミック系でオファーを頂けるよう、精進していきたい。

今回は、不動研のキューピーちゃんこと松岡利哉さんをお願いします（Pen Relay?）。



筆者：右手のゼッケン35